

議事（2）

風力発電に係るゾーニング 実証事業について

第1回 洋上風力発電ゾーニング協議会

平成30年11月2日（金） 久慈市

環境省応募事業の概要

環境省応募事業の概要（背景）

- ・地球規模で地球温暖化が進行し、対策として2015年に「**パリ協定**」が採択
「パリ協定」・・・地球の平均気温の上昇を2°Cより十分下方に抑えるとともに1.5°Cに抑える努力を追及する（産業革命前比）

【国の取組み】

- ・地球温暖化対策計画（平成28年5月 閣議決定）
 - 長期的目標として**2050年までに80%**の温室効果ガスの排出削減（2013年度比）を目指す
 - 風力発電を含む**再生可能エネルギーの最大限の導入**等の地球温暖化対策を大胆に実行する
 - 地方公共団体の役割：地域の自然的社会的条件に応じた温室効果ガスの排出抑制等のための総合的かつ計画的な施策を推進

課 題

【出典：環境省HP】

環境省応募事業の概要（背景）

【課題】

他方、風力発電（特に陸上風力）については、**立地適地をめぐって事業計画が集中**し環境面で累積的影響の考慮の必要性などが指摘されているほか、**環境影響**や**周辺住民との紛争**等が顕在化している例があります。

解決の方策として

【解決の方策】

このため国内外において、再生可能エネルギー導入を推進すべきエリア、環境保全を優先すべきエリア等の設定を行う**ゾーニングの導入**の例も見られるようになってきております。

ゾーニングは環境情報の重ね合わせを行い、関係者による調整の基でエリアを設定するもので、これにより地域の理解促進及び紛争予防、風力発電等の円滑な導入に資するものです。

久慈市でのゾーニング実施の背景と目的

【岩手県の取組み】

・「岩手県環境基本計画(1999年)」

→2010年度の二酸化炭素排出量を**8%削減**(1990年度比)の目標

・「岩手県地球温暖化対策実行計画」

→市民や事業者、行政などの各主体が一体となって、温室効果ガス排出抑制等の対策や**再生可能エネルギーの導入促進**、森林吸収源対策に取り組むことにより、環境にやさしく、災害にも強い「**低炭素社会の実現**」を目指す

→2020年度の再生可能エネルギーによる**電力自給率 35%**

→2020年度の温室効果ガス排出量を**25%削減**(1990年比)

【久慈市の取組み】

・「久慈市地球温暖化対策実行計画(2016年)」

久慈市でのゾーニング実施の背景と目的

【久慈市の取組み】

・「久慈市地球温暖化対策実行計画(2016年)」

→2030年度までに温室効果ガスを**38.4%削減**(2012年度比)の中期目標

→2020年度までに温室効果ガスを**17.0%削減**(2012年度比)の短期目標



【「東日本大震災」を受けて】

東日本大震災で甚大な被害を受けた久慈市では、復興計画により「新たな視点による新たなまちづくり」を進めてきました。

災害に強いまちづくりを進めるとともに、**再生可能エネルギーへの取組み**を推進し、久慈市が必要な電力は、自らの手で創造する「自助」、地域や近隣の人々がお互いに支え合う「共助」、エネルギーの活用・供給の拠点となる「まち」を目指すものとしています。

課題

久慈市でのゾーニング実施の背景と目的

【課題】

久慈市内では温室効果ガス排出量は2005年の24.8万tと比較して2012年は30.1万tと増加傾向にあります。

また、災害時には、自立電源が少なく、電力自助回復方法がないという問題を抱えています。

解決の方策として

【解決の方策】

久慈市の持つ強みに注目し、環境省委託事業「平成30年度風力発電に係るゾーニング実証事業」を活用し、風力発電に係るゾーニングを実施・ゾーニングの実効性の実証を行います。

久慈市の強み

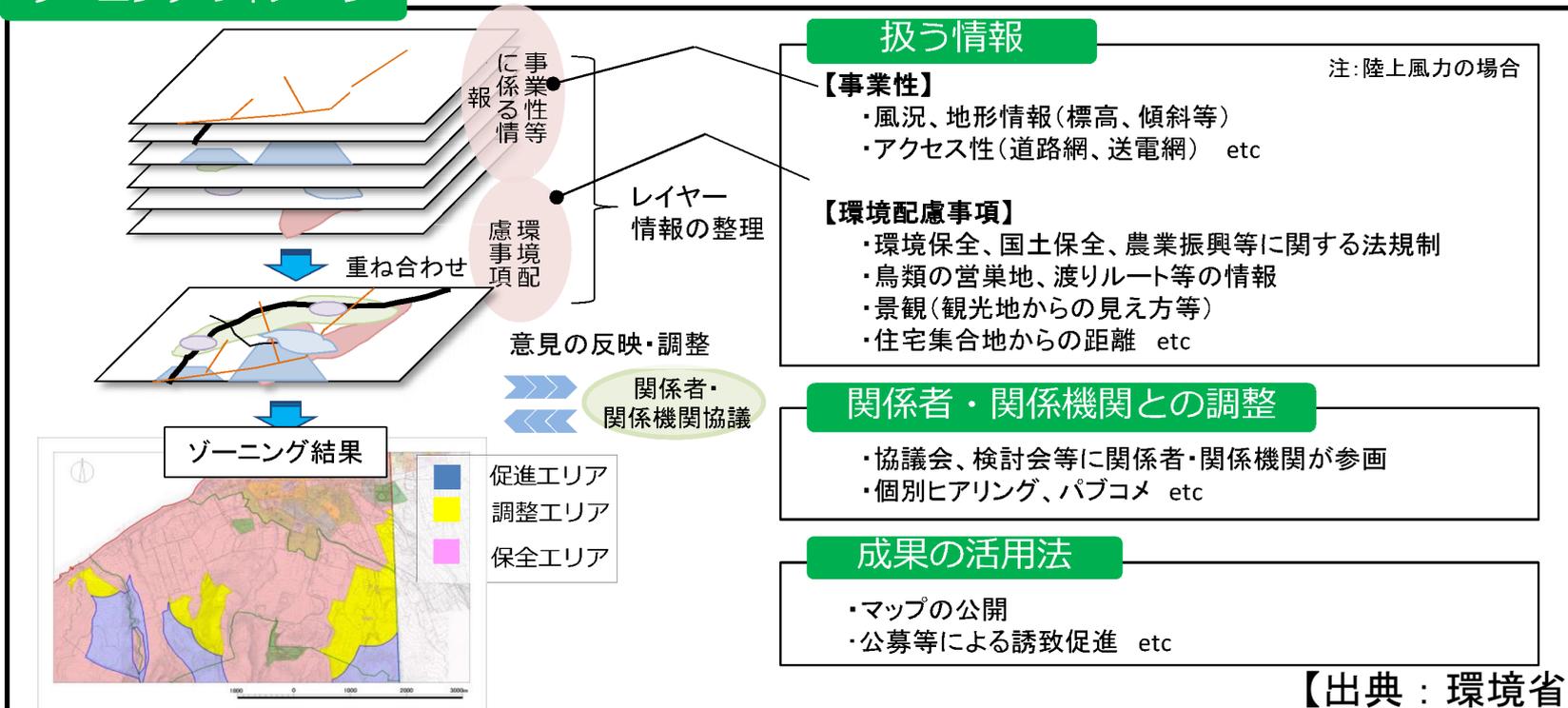
- 風況等の賦存量が高い
- 風車施工や作業ヤードに利用できる久慈港を備えている

また、久慈市海域を中心とするアンケート調査や環境調査などを行い、地域固有の自然環境や社会環境などの情報を幅広く収集し、地域住民のくらし・産業・環境の調和が取れた、風力発電事業の方向性を検討していきます。

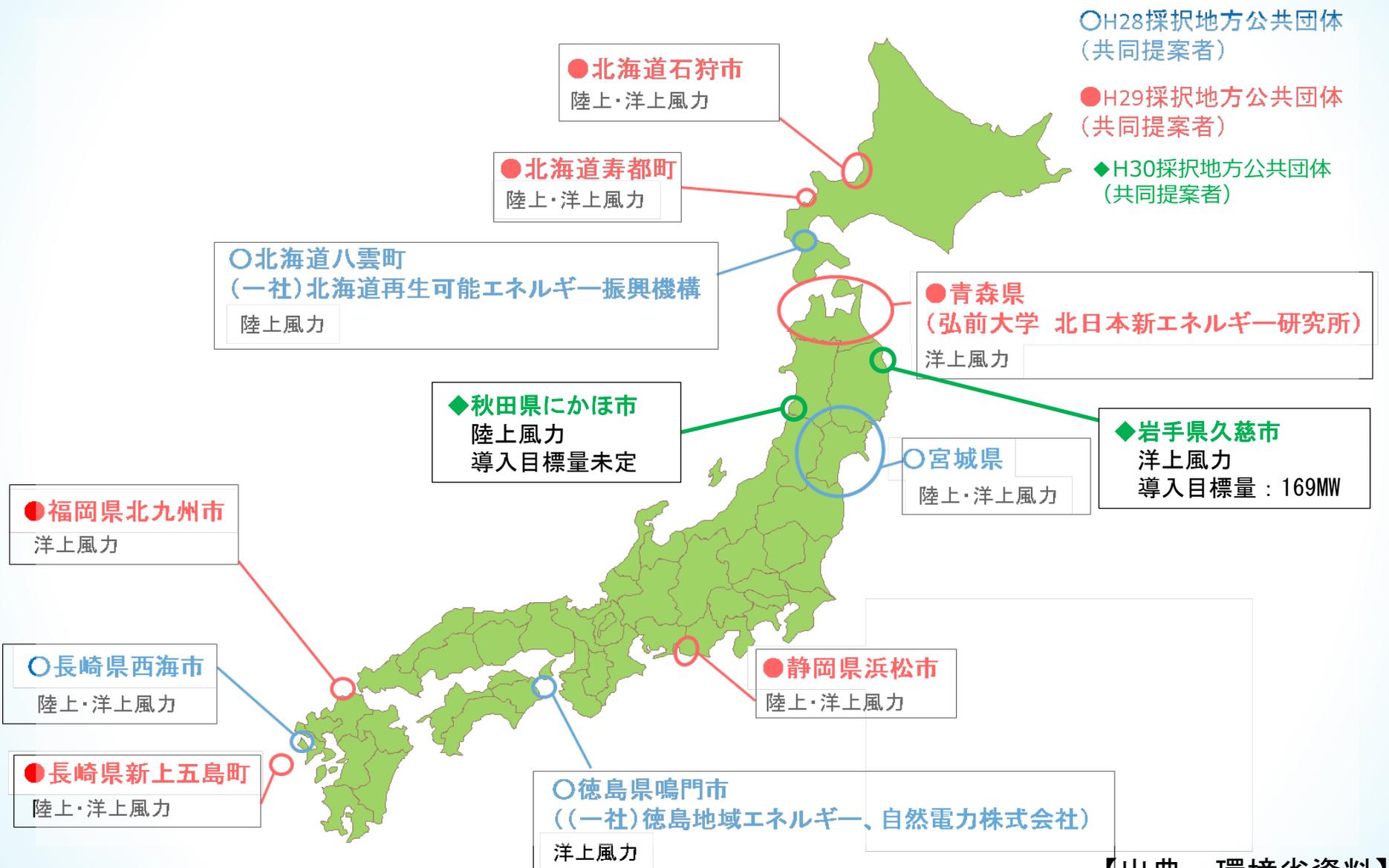
風力発電に係るゾーニング実証事業

- 風力発電については、騒音やバードストライク等の環境影響や地元の反対意見等が問題となることがあり、環境アセスメント手続に時間を要することがある。
- このため、環境省では、事業計画が立案される前の早期の段階で、地方自治体主導で、関係者の協議のもと、再生可能エネルギー導入を促進するエリア、環境保全を優先するエリア等を設定する「ゾーニング」を行うことを促進。平成28年度から風力発電に係るゾーニング手法検討モデル事業を10地方自治体において実施。平成30年3月に「風力発電に係る地方公共団体によるゾーニングマニュアル」を策定・公表。
- ゾーニングの制度化（ゾーニングの実効性を確保し具体化に向けた仕組み）を検討するため、地方公共団体に公募を行い、今後3箇年をかけて環境影響評価に係るゾーニングの実証事業を行う。**
- ゾーニングを踏まえた事業計画が立案されることにより、地元の理解が得られやすくなり、また、環境アセスメントに要する審査期間、調査期間の効率化・短縮化が見込め、風力発電の円滑な導入を促進。

ゾーニングのイメージ



風力発電に係るゾーニングモデル地域



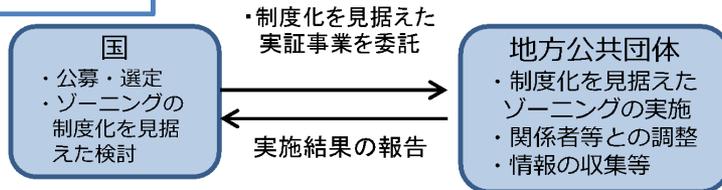
【出典：環境省資料】

風力発電等に係るゾーニング導入可能性検討モデル事業

背景・目的

- 風力発電については、環境影響評価手続の迅速化が求められるとともに、立地適地を巡って事業が集中する状況にあり、累積的影響への対応などが課題となっている。
- これらの課題に対応し、再生可能エネルギーの導入と環境配慮を両立させるためには、地域の自然的条件・社会的条件を評価し、導入促進に向けた促進エリアや環境保全を優先するエリア等を設定するゾーニングが有効である。ゾーニングの効果を担保するためには、制度的・技術的な側面からの検討も重要。

事業スキーム



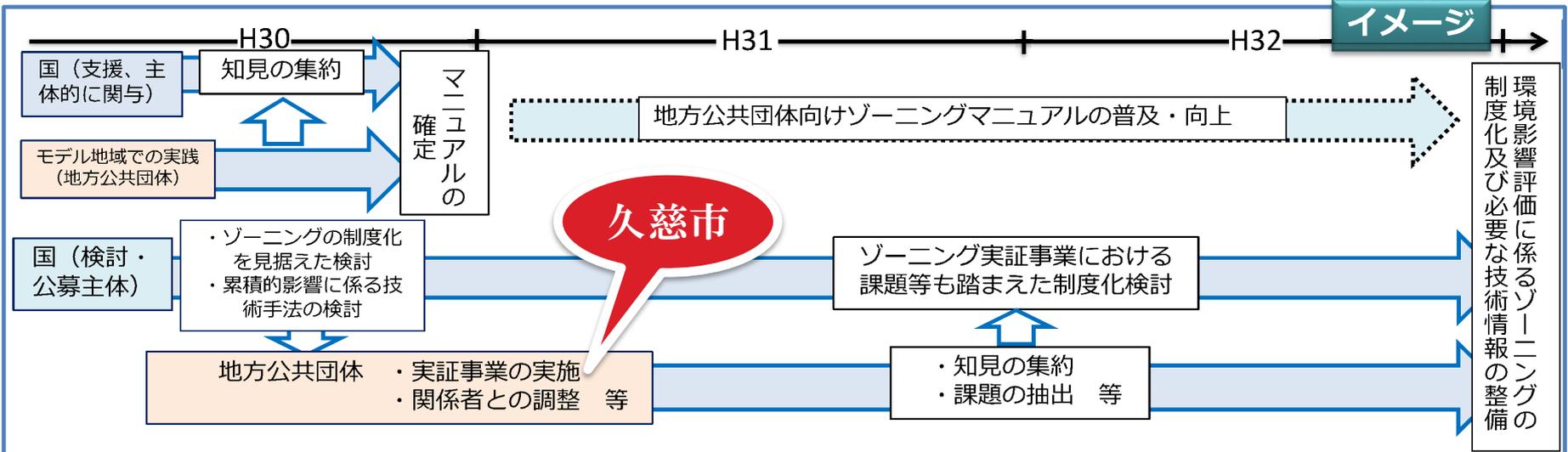
実施期間 平成28～32年度

事業概要

- ゾーニング手法マニュアルの策定・普及
 - ・平成29年度に採択した6地域において、ゾーニング手法に関するモデル事業を実施し、その成果等を踏まえてゾーニング手法マニュアルを策定する。本マニュアルについて、セミナー等により普及促進を図る。
- 環境影響評価に係るゾーニングの制度化を見据えた検討
 - ・ゾーニングを環境影響評価に位置付けることも見据えて、国内外の調査結果等を踏まえながら、効果的な制度化の在り方について検討を行う。
 - ・このような検討結果を踏まえ、地方公共団体を選定し、環境影響評価に係るゾーニングに関して必要な手続等に取り組む実証事業を行う。その成果等を制度化を見据えた検討に反映する。
 - ・制度化の検討を行うに当たっては、累積的影響の考え方等の技術的手法等についても検討を行う。

期待される効果

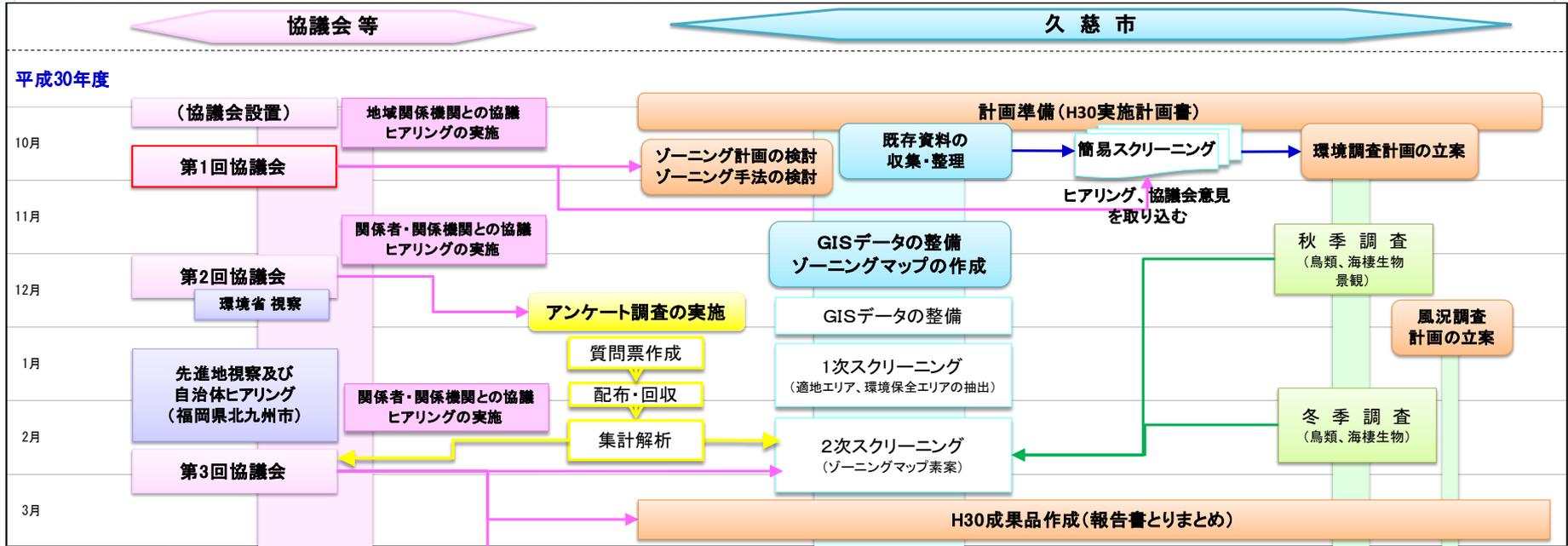
- 効果的なゾーニング手法に関するマニュアルを整備するとともに、制度化を見据えた検討を進めることにより、環境配慮と両立した形での風力発電の大量導入を促進する。



スケジュールと 各年度の到達目標

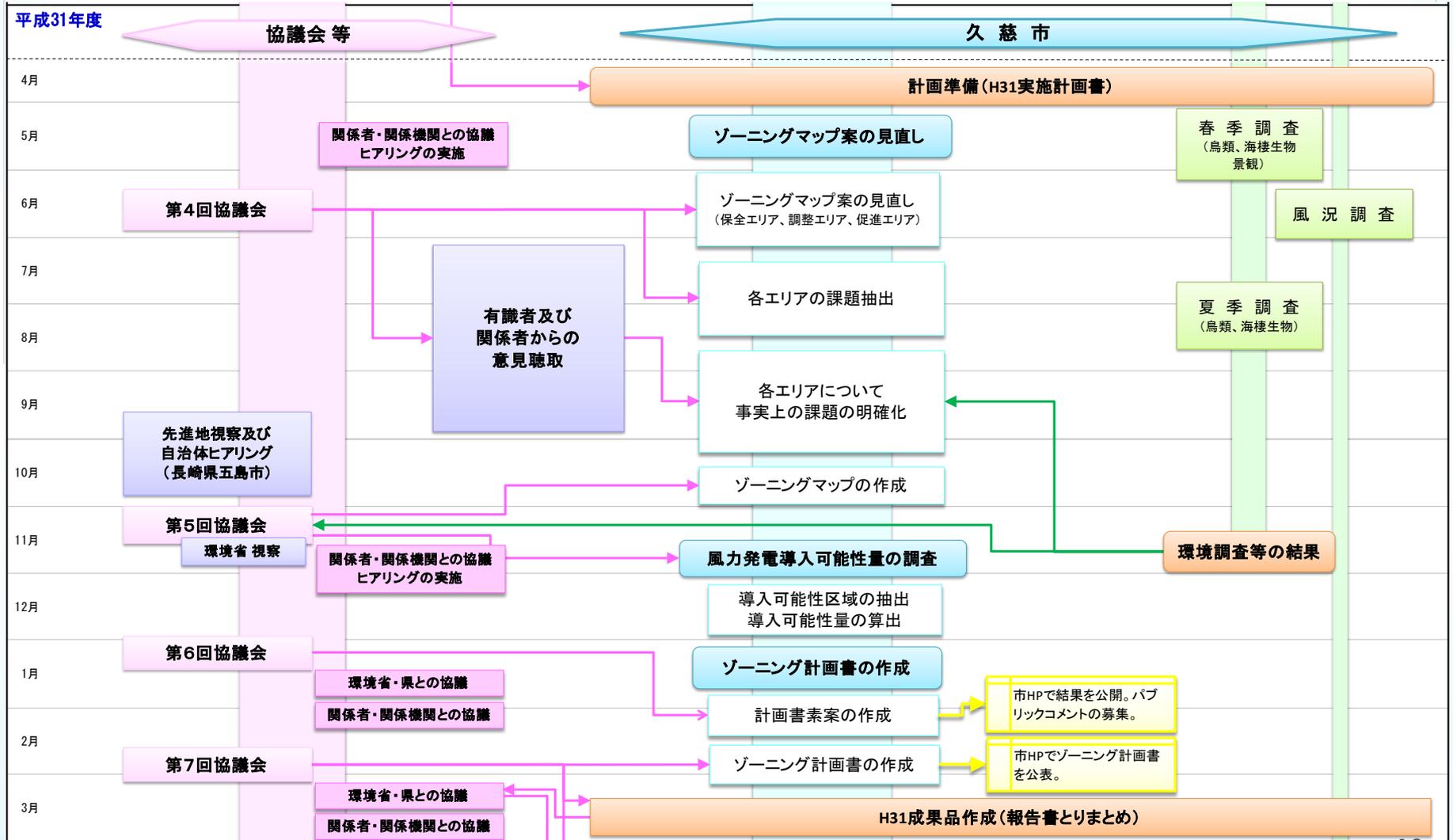
実施スケジュールと到達目標 平成30年度

既存情報及び環境調査等の実施により、久慈市内の自然環境情報を把握し、ゾーニングマップ案を作成します。



実施スケジュールと到達目標 平成31年度

協議会等の承認を得ながら、風力発電導入の促進エリア、環境保全を優先すべきエリア、立地にあたって調整が必要なエリアを設定し、ゾーニング計画書を作成します。



実施スケジュールと到達目標 平成32年度

久慈市における洋上風力発電施設計画・環境アセス配慮書を作成します。
久慈市による事業化又は公募による事業化を検討します。

